

明星院だより

発行所
広島市東区二葉の里
2丁目6-25
明星院
TEL 082-261-0551
FAX 082-262-1827

頌春 敬礼三寶

明けましておめでとうございます。
毎年、人間の煩惱を消してくれるという除夜の鐘を聞く、と慌ただしくいたずらに日々を過ごし、その時の中で自分自身を見失い、周囲の人たちに度々迷惑をかけたことに気づき反省させられます。

正月は、修正月。心を修正し、自分を支えてくれる周囲の人々に、常に感謝する気持ちを忘れず、一日一日を大切に過ごすことを仏や神に誓う月です。

昨年の天変地異は、スーパー猛暑のみならず、西日本豪雨につづく島根県西部・大阪府北部・北海道胆振東部を襲った地震・台風21号24号の襲来等、自然の猛威をまざまざと見せ付けられ各地に大きな爪痕を残しました。

檀信徒の有縁の皆様の中には、被災された方今なお仮設住宅等で不自由な生活を余儀無くされておられる方もおられると聞き及んでおります。謹んでお悔やみお見舞い申しあげると共に一日も早い一日も早い復旧復興を祈るのみであります。



己亥

元旦

いのちの力

冬のさなか
雪どけを待つ山の木々は
凍てついた大地の下で
たしかに根をのばし呼吸をしています

三寒四温をくりかえしながらも
日々暖かくなり日差しを受けて
木々はいっせいに活動をはじめます

若き日のお大師さまは

山中に身を投じ

厳しい修行にはげみました

自然からいただくいのちの力

私たちの生きようとするいのちの力

それを信じそしてお大師さまをたよりに

歩いていきましょう
日を月に月を年に

南無大師遍照金剛

追悼

高野山ハワイ開教区元総監
靈感山弘法寺第三世

沖村全栄僧正を偲ぶ

当山法類寺院弘法寺住職、山主の別願の法友として長年交誼を賜った沖村全栄師が、昨年十二月一日四大不調のため、遷化されました。世寿六十三歳。

山主とは昭和四十九年高野山無量光院での修行生活の第一歩からの仏縁で、特に平成二十年十一月には共に学修灌頂に入壇し傳燈大阿闍梨位に供昇しました。当山諸行事にも常に参加下さり、明星院によせられました愛山護法の念に對しまして、心より感謝申しあげると共に、謹んで哀悼の誠を捧げます。



平成三十一年 明星院行事予定表

一月一日～三日	修正会・新年初祈禱
二月二日	開運厄除祈願節分星祭
三月二十一日	春季彼岸会
三月二十五日～二十八日	四国八十八ヶ所巡拝
五月十七日～十九日	仁和寺観音堂落慶法要参拝
八月上旬	お盆勤め
八月十三日	うら盆施餓鬼会
九月二十三日	秋季彼岸会
十二月八日	赤穂義士討入り大祭

編集後記

☆昨年末に発表された世相を表す漢字一字は、予想通り『災』でした。今年は「転じて『福』となす」よう願っています。
☆昭和から平成へ。「昭^{しょう} 和^わ 平成^{へいせい}」さて次の元号はどの様に続くのでしょうか。
☆本年は、浅野氏入城四百年に当たり、記念の諸行事が催されます。ご期待ください。
☆六日より寒に入ります。皆様のご自愛をお祈り申しあげます。



巡 拝 日 程 表	
3/25 (月)	広島駅==《山陽道・瀬戸大橋》== 28) 大日寺== 25) 津照寺== 24) 最御崎寺==御厨人窟== 26) 金剛頂寺 (泊)
3/26 (火)	宿坊== 27) 神峰寺== 29) 国分寺== 30) 善楽寺== 35) 清瀧寺== 36) 青竜寺== 34) 種間寺== 33) 雪蹊寺 == 32) 禅師峰寺==ホテル (泊)
3/27 (水)	ホテル== 31) 竹林寺== 37) 岩本寺== 38) 金剛福寺 39) 延光寺==ホテル (泊)
3/28 (木)	ホテル== 40) 観自在寺== 41) 龍光寺== 42) 仏木寺 ==番外) 十夜ヶ橋==今治==《瀬戸西・山陽道》==広島駅

※巡拝の順序や旅程は、道路事情、天候等により多少変更されます。

巡 拝 日 程 表	
5/17 (金)	広島駅==《山陽道》==京都―一昼食 京都御所迎賓館==花園会館 (泊)
5/18 (土)	宿坊==大覚寺 (写経)・広隆寺==昼食 仁和寺観音堂落慶法要参拝==白河院 (泊)
5/19 (日)	宿舎==泉涌寺・東福寺== 《山陽道》==広島駅



《只今募集中》
四国遍路 (土佐之国)
第九期第二回巡拝
◇日程 三月二十五(月)～三月二十八(木)
(三泊四日)
◇定員 二十五名
◇会費 八〇,〇〇〇円
◇申込 三月十五日までに当山へ
(但し、定員になり次第締め切ります)

《只今募集中》
仁和寺観音堂修復落慶法要
参拝特別回参
―高円宮妃久子殿下ご参列―
◇日程 五月十七日～十九日
(二泊三日)
◇定員 二十名
◇会費 六三,〇〇〇円
◇申込 三月末日までに当山へ
(但し、定員になり次第締め切ります)

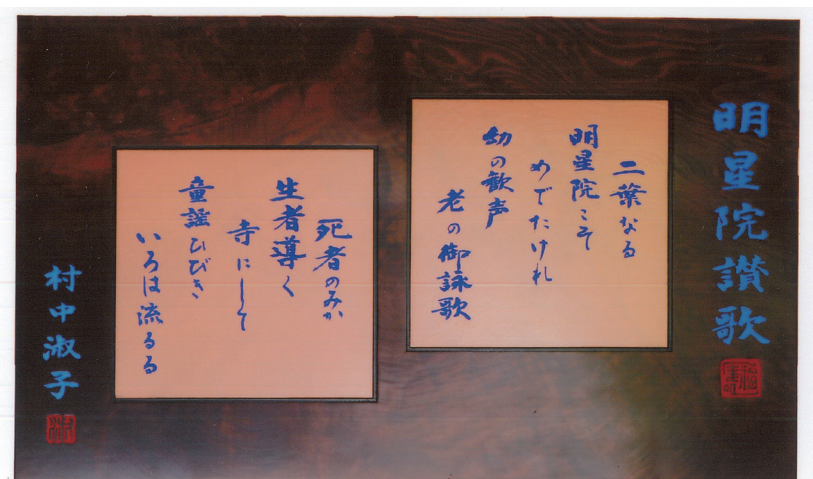
京都御所と併せて、皇室ゆかりの
旧御室御所・旧嵯峨御所・皇室菩提寺
(仁和寺) (大覚寺) (泉涌寺)
を参拝します

護摩堂提灯
奉納のお願い

平成二十六年以来、五年間の
風雪に耐えてきた提灯も特に傷
みが激しくなっております。ま
いりましたので、今度新しく志
納を発願いたしました。つきま
しては、左記により皆様方のご
協力をお願いいたします。

記

一、御奉納は一本につき二万円
でお願い致します。
二、提灯の裏側に御芳名をしる
し、五年間護摩堂縁側の軒に
つるすと共に、奉納帳に願
意・氏名を記帳して毎月縁
日(二十八日)にご祈願致
します。
三、左右十五本ずつで三十本を
もちまして締切ります。
四、お申し込みは、申込用紙を
寺務所に郵送ください。
電話での仮受付もさせていただきます。



明星院だより
村中淑子

仁王門に当山讃歌の額を設置

お大師さまの篤信者で、当山の団参に長らく参加下さった村中淑子女史より、和歌を二首奉納いただきました。

『二葉なる 明星院こそ めでたけれ
幼の歓声 老の御詠歌』

(意) 二葉は、町名二葉の里と幼・老を二つの葉に譬えた掛詞です。毎日運動場や教室内では園児達の明るい歌声が聞こえ、月に一度催される御室金剛講明星院支部の研修室では講員達が御詠歌や和讃を唱え、お大師さまに奉納しています。

『死者のみか 生者導く寺にして
童謡ひびき いろは流るる』

(意) 御葬儀の時に導師は亡者に対して戒名を授け、引導を作法して極楽浄土に送り届けます。しかし、残された遺族に対しても即身成仏の教えにより、この世で仏と成ることを説く寺なのです。境内からは先生のピアノに合わせる子供達の童謡がひびき、鈴鉦を打ち鳴らして「いろは歌」がながれている。

この櫓の一枚板(九十cm×百五十cm)は、西区三篠町の故村上弘子様より寄進されたものです。
―尊い喜捨に対し衷心より深謝申しあげます―

各種行事を開催

夏の夜、祈りと平和の夕べ

八月五日(日)十八時～二十一時



ローソクに灯された参道



桜が丘高校吹奏楽部の演奏

二葉の里「和奏光夜」

エキキタウオーク

十一月三日～四日十七時～二十一時



Dressing さんのコンサート



書道家 hiro さんによる書道パフォーマンス

二葉の里歴史の散歩道

～赤穂義士ゆかりの地を巡る

十一月二十八日

十時～十二時三十分

年に一度の特別コース、今回で8回目を迎えました。本堂の「赤穂義士木像」や聖光寺の「大石父子供養墓」をボランティアガイドの歴史解説を聴きながら巡り、明星院の特別公開は、今回初めて「赤穂忠臣記(頼三樹三郎筆)」を中心とした「頼山陽と頼家一族ゆかりの所蔵品」及び「茶杓『銘 安名尊』吉良上野介義央作」も特別展示されました。



◇特別公開◇

「赤穂忠臣記(頼三樹三郎筆)」
「頼山陽 塑像」
「頼山陽書翰並嶺松廬之図」
「頼家一族 肖像画」
「頼山陽 詩入 舞子焼一輪生」
「屏風 六曲一双」

特別展示

茶杓『銘 安名尊』

Q 新年を祝うお正月の行事は、古くは「先祖を祭る行事だったと聞きました、本当でしょうか？」

A それは本当のようですね。かつては、大晦日から元旦にかけて歳徳神(正月さま)や田の神を家に迎え入れ、丁重にもてなす風習が日本全国で見られましたが、もっと古くには、一月と七月の満月の夜(旧暦十五日)に、先祖の魂を神として迎える魂祭(たまふり)の行事があったようです。

七月の魂祭は仏教の盂蘭盆会と習合して今に行われていることはよく知られていますが、一月の魂祭は前述したように、正月さまや田の神迎えとして大晦日から元旦に行われるようになったために、わずかに小正月(一月十五日)の風習として名残があるのみで、先祖祭としての性格が徐々に薄れていったものと思われまます。

いずれにしろ、新しい年を迎える喜びと幸せを感謝し、ご先祖様と共に寿ぐことを忘れないようにしたいものですね。そのためにも、元旦にはお仏壇を念入りに飾り、家族全員で手を合わせて礼拝を奉げることが大切です。現在のように家族の絆が失われゆく時代にあっては、古き良き風習に倣って、家族揃って心の豊かさを甦らせたいものです。

Q お正月には「鏡餅」をお飾りしますが、それにはどういう由来があるのでしょうか？

A 「鏡餅」は文字通り鏡のように丸い餅ということです。青銅鏡などに見られるように、古代においては鏡は円形をしており、三種の神器の一つとしてもよく知られていました。一方、最高の食物であった米で作られた餅は、神への捧げものとして欠かせないものであり、そこから、餅を鏡のように象って神聖なお供えとするようになったのでしょう。

鏡餅が一般に普及し始めたのは室町時代以降のことで、特に武家では床の間に鎧甲を飾り、その前に鏡餅を置いて武運長久と家の繁栄を願ったとされています。さらに庶民の間では、丸い餅を重ねた姿に、家庭円満と新しい年をめでもたく重ねるという意味が付されて、お正月の飾りとして広まっていったようです。

鏡餅に付ける飾りものは地方によって違いますが、裏白(常にみずみずしい緑の葉を保ち枯れないことから家運繁栄の意。また、葉が対になって生えるので夫婦円満の意もある)、讓葉(新しい葉が成長するのを待って古い葉が落ちることから子孫繁栄の意)、橙(家が代々続くことを祈る)、海老(長寿の意)、串柿○万物をかき集めるの意)、昆布(「子生」に通じて子宝に恵まれる。また喜ぶにも通ず)等々、すべてめでたい意味づけをしたものを飾ります。

Q お正月の飾り物としてよく目にする門松や注連縄には、何か特別な意味がありますか？

A 門松は、通常は暮れの二十八日前後から各家の門前に立てられ、六日の夕方から夜にかけて取り除かれる習慣がありました。「松の内」という言葉はここから来たもので、門松が飾られている機関ということです。門松を立てる風習は民間から始まったものらしく、『徒然草』に記載のあるところから、平安時代には都の風俗として定着していたものと思われる。ただし、その当時は松のみを門前や屋敷内に立てたものらしく、松に竹を添えるようになったのは江戸時代以降のことのようです。注連縄は、ご存知のように神事において清浄な場所を区切る境界のしるしとして飾られるもので、その由来は『古事記』にある天岩戸神話に依っています。

門松と注連縄を総称して門飾りとも言い、ともに邪気やけがれを門より中に入れないという意味があり、おめでたいお正月の風習として、現代にも受け継がれているわけですね。

道歌に学ぶ

—— 先人の枕ことば ——

長生きをしたかどうかを 問うよりも
如何に生きたか それを問うべし

あらゆる面で満ち足りている現代では、逆に「クオリティ・オブ・ライフ」という考え方が浸透してきているようです。「人生の質」のことです。

なんでもそうですが、細いよりは太い、短いよりは長い、軽いよりは重たいほうが良いような気がします。でも、身体の線は細いほうが良いでしょうし、体重は軽めが良いようにも思います。足は長いほうが素敵です。この場合はそういうことではなく、質が問われているのです。

精神科医の米沢英雄先生の『こころの誌』というのがあります。

（旅行で乗り物に乗って）終着駅に近づくと、親切な車内放送が聞こえてくる。

「皆さん、ながらくのご旅行でお疲れ様でした。次は終点です。お忘れ物のないように、いま一度、お改め下さい」

（私たちは）やれ昇給だの、レジャーだと騒いでいるうちに人生の終着駅に行きつく。

その時に、はじめて重大な忘れ物をしていたことに気がつく。それは、

「私は何のために生きているのかを尋ねることを忘れていた！」

ただ何となく汽車に乗り、ただ何となく移り変わる景色に心を奪われていたのではなかったか。急にあわてだしても、間に合わぬ。

ウーム。私たちは何のために生きてきたのでしょうか。ただ漫然と目を過ごし、移り変わる毎日の景色にこころを奪われ、大事なことを忘れてしまっていたのではないでしょうか。乗り物も人生も、必ず終着駅にたどり着きます。その時駅長さんならぬ閻魔さま、イヤッ、阿弥陀さまに尋ねられたらどう答えますか。米沢先生のように「急にあわてだしても、間に合わない」のです。

冥土にて 阿弥陀閻魔に きかれるぞ
そなたは娑婆で 何を為したか

たった今 今こそ大事 そのわけは
未来といえど すぐに過去なり

「季節の過ぎるのが早い」と感ずるのは、年を取った証拠だなどと言いますが、本当です。年回忌のご法事などの席で、ご遺族が異口同音におっしゃいます。「年月の過ぎるのは早いものです。もうお婆さまの三回忌ですものね」と。

皆さんはこれから十年先のことを想像できますか。自分が何をどうしているか、どうなっているか、分かるようでいてサッパリ分からないものです。その反対に、過ぎ去った十年などは、それこそアツと言う間のように感ぜられるはず。その証拠に、記憶の中で幼い頃に瞬時に変えることができます。

山の神 拝んで大事にするがよし
福の神にぞ なる例あり

何事も 先に延ばすな すぐにやれ
今度と化け物 出た例無し

ドラエモンに出てくるタイムマシンのことです。真剣に研究している学者さんもうるようですが、こればかりはどんなに化学が発達しても、作ることとはできないことでしょう。

今が大事なんです。未来だ将来だと言っていますが、それはすぐに過去になってしまいます。これだけは間違いありません。

言い古された喩えかも知れませんが、花は散るからこそ綺麗なのです。もしも、散ることのない造花だったらどうでしょう。「桜が咲いたら花見に行こう」と誘われても、「今は忙しいので、お盆が過ぎてからにしようよ。秋でもいいし…」なんてことになりかねません。造花ではない、生きている花だからこそ咲いている時間に限りがあるのです。今しかない、来週になったら桜は散ってしまうだろう。だからこそ価値があるのです。

つまらぬ歌でしょうが、こんなのはどうですか。
言うなかれ 時間よ止まれ 進むなど
好きになるのは ドラエモンだけ

鴛鴦の 契り結んだ 仲なれど
思いやらずは やがて飛び立つ

おしどり夫婦などと言われたのは、いつのことだったでしょう。固い約束を交わした仲であっても、思いやりの言葉を掛けることも無ければ、やがて羽の生えたおしどりは、愛の巣から飛び立ってしまいますよ。

恐妻家は奥さんを「山の神」と呼ぶそうですが、奥様を「神さま仏さま」と、朝な夕なに拝んで大事になさいまし。後悔先に立たずと言うではありませんか。奥さんは召し使いではありません。ましてお手伝いさんでもありません。人生の最良の伴侶なんです。かと言って揉み手をしてゴマをすったり、必要以上に卑屈になって機嫌を取ったりすることもないでしょうが、とにかく大事にしましょう。さすれば、「山の神」もいつしか「福の神」になりますよ。